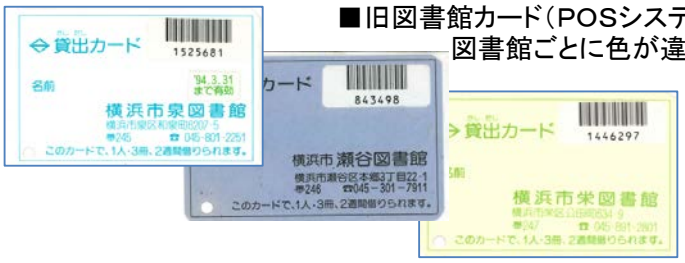
オンライン導入前後【貸出】

中央図書館が開館し市立図書館全館がネットワークでつながったことで、貸出の方法も変わりました。オンライン導入前と導入後の貸出方法の変化をご紹介します。

1　図書館カード

【以前】　図書館カードは共通ではなく、各市立図書館ごとにカードを登録する必要がありました。貸出冊数は1人3冊、2週間でした。



■旧図書館カード（POSシステムの時のもの）
図書館ごとに色が違いました。

【今】　図書館カードも貸出方式も市立図書館全館共通です。どの市立図書館本を借りられ、どの市立図書館でも返すことができます。1人6冊、2週間借りられます。

2　貸出方式【以前】

図書館情報システムで全館がつながるまでは、次のような貸出方式を使用していました。

●トークン式

移動図書館「はまかぜ号」で、中央図書館が開館するまで用いられていた方式です。カードを登録すると図書館カードとプラスチック製の札（トークン）を一人3枚渡されました。本を借りるときには、借りる本の冊数だけトークンを図書館に渡し、返却の時には返した本の数だけトークンを受け取ることができました。

非常に簡便な方法でしたが、誰がどの本を借りているのかまったく分かりませんでした。

■トークン
オンライン化前に「はまかぜ号」で使用されていました。黄色と青のトークンを1年おきに交換して使っていました。

●フォトチャージングシステム

昭和49（1974）年に磯子図書館が開館するときに、館外貸出の飛躍的な増加を予想して、神奈川県下ではじめて導入されたシステムです。カメラで撮影して、マイクロフィルムに図書館カードと、書名、日付、通し番号を写し取り、図書貸出記録としていました。フィルム1巻分の撮影が終わると現像に出しました。現像したフィルムはフィルムリーダーで読み取っていました。

●記名トークン式

利用名が書かれたトークンを、借りる本の冊数だけ図書館に渡す方法です。図書館は、その記名トークンを返却日ごとに名前の50音順に並べていました。返却のときには、図書館職員が本の返却日ごとに記名トークンを探し、利用者に返していました。保管場所が必要になることや、処理に時間がかかるなどの問題がありました。山内図書館（昭和52（1977）年に開館）で用いられていました。

●POS（Point　of　Sales）システム

昭和53（1978）年に戸塚図書館で導入された、横浜市立図書館初のコンピュータによる貸出システムです。図書館カードと本に付与されたバーコードを、図書館に設置された端末のバーコードリーダーを使って、カセットテープに貸出日とともに記録しました。そのテープを週に一度、コンピュータで一括処理していました。当時のコンピュータで扱えるのはカタカナと英数字だけだったため、書名や著者名の入力は行いませんでした。磯子図書館と山内図書館も昭和55（1980）年に、貸出方式をPOSシステムに転換しました。

■POSシステム端末
（『みんなのひろばno.19』より
（山内図書館報　昭和56（1981）年刊）